



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### アフガニスタン：大統領による反政府勢力への対話呼びかけ (9月29日付現地報道)

1. 9月29日、カルザイ大統領は、先の国連訪問について記者会見し、アフガンにおける恒久的平和の実現のために、タリバンが要求している政府の職を提供する意思があることを発表した。タリバンのもう一つの要求であるアフガン駐留外国軍の撤退については拒否した。又、同大統領は、アフガン政府とタリバンの和平交渉の実現のために、国際社会からの強い支援を訴えた。
2. カルザイ大統領の発言（記者会見にて）
  - (1) アフガン政府は、平和を求める如何なる勢力とも対話する用意があり、タリバンのオマル師、ヒズベイスラミのヘクマティアルに対してもそうである。独立した選挙により政権の座を求める者は、選挙結果によっては政権に就くことが可能である。実際、現体制下において、選挙により公職に就いているタリバンやヒズベイスラミ・メンバーもいる。
  - (2) 反政府勢力は、外国軍の撤退を要求しているが、道路が完成し、水供給のための計画が実行され、電力システムが改善され、治安部隊が適正に訓練を受け終えるまでは、外国軍の撤退を認めるわけにはいかない。
  - (3) 平和と治安の回復のために、国民和解委員会や治安部隊、部族長や聖職者を通して、タリバンとの交渉は既に行われているが、交渉が公式に開始されたわけではない。治安の悪化やケシ栽培の増加の主原因は、政府のある機関、とりわけ治安部隊の脆弱性にあるともいえる。しかし、政府機関を強化するための様々な努力は現在も行われている。
  - (4) 今回の国連訪問は成功であった。各国指導者が復興計画や治安回復、麻薬撲滅のために継続的な支援を確約してくれた。
  - (5) (29日にカブール市内で発生した自爆テロ事件を非難しつつ)テロとの闘いには世界規模での取り組みが必要である。アルジェリアからインドネシア、米国から日本に至るまで、我々はテロとの闘いにおいて一致協力し、断固として闘いに臨まねばならない。
3. カルザイ大統領の対話呼びかけに対し、タリバンのユスフ報道担当は、29日、APに対し、「外国軍がアフガンから撤退しない限り、アフガン政府とは交渉しない」との従来からの主張を述べた。